

## 調査解析 4

# 緊急時における原因物質等調査手法の活用

### 【研究概要】

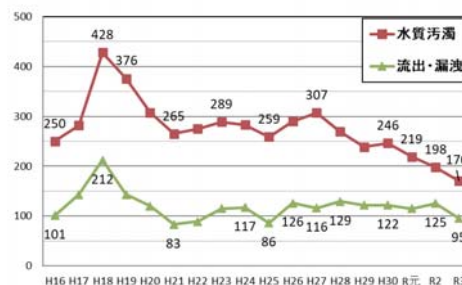
水質汚濁関連の事故・苦情への対応に役立てるため、他の自治体とも連携して機器分析手法を体系的に再構築し、網羅的機器分析と生物応答試験のスクリーニングを合わせることで、迅速な発生源の特定に寄与し、速やかな対策につなげていきます。

### 【サブテーマ】

- ① 事故時等の原因物質等分析手法の再構築
- ② 緊急時原因物質等調査手法への活用

### 【現状・課題】

- ・ 依然減少しない流出・漏洩事故件数
- ・ 苦情発生時の原因物質の特定が困難
- ・ 被害拡大防止のためには、速やかな発生源および原因物質の特定が必要



滋賀県内での水質関係の苦情発生件数の推移  
(公害等調整委員会の公害苦情調査結果から)

### 【課題解決に向けて】

#### ① 多様な事故に対応する原因物質等分析手法の確立

- ・ 油流出、着色・白濁、泡立ち、魚のへい死など水質事故等の緊急時に対応する機器分析の手法の体系的な整理
- ・ 発生源や原因物質の特定を図る分析手法の構築



GC/MS



LC/MS

#### ② 緊急時における原因物質等調査手法の活用（機器分析、生態影響評価）

- ・ 化学物質網羅的簡易迅速分析測定法の分析精度の確認と適用
- ・ 生物応答を用いた水環境調査方法の情報収集、生物応答試験（生態影響評価）の精度の確認



生物応答試験

- ・ 行政機関が実施する原因究明や影響把握の調査に対し、助言と適切な情報提供を行う。
- ・ 生物応答簡易試験（スクリーニング）と網羅的簡易迅速分析のリンクにより、調査の効率化につなげる。